現地説明会資料　　平成 25 年 10 月 19 日（土）

下坂本清合遺跡の発掘調査

国土地理院 1/25000 地形図「鳥取南部」より

本日は、御来場いただき、誠にありがとうございます。

公益財団法人鳥取県教育文化財団では、一般国道９号（鳥取西道路）の建設に先立ち、今年の５月から鳥取市気高町下坂本に所在する下坂本清合遺跡の発掘調査を行っています。

下坂本清合遺跡は、鷲峰山のふもとから北へのびる丘陵に挟まれた平野を流れる、河内川の左岸に位置しています。

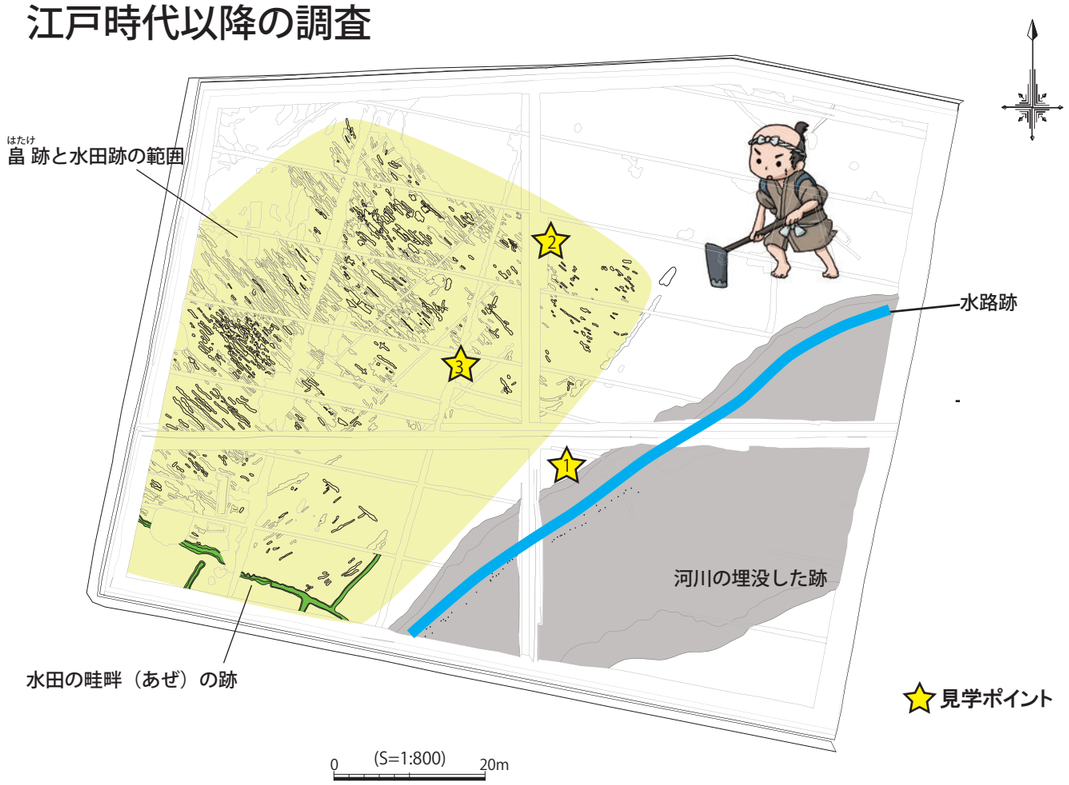
今回、鎌倉時代（約８００年前）の掘立柱建物跡や畠跡、河川跡と、江戸時代以降の水田跡、河川跡などを発掘調査しました。

かつて調査区内を流れていた河川が幾度もの氾濫を繰り返し、氾濫によって運ばれた大量の土砂によって、河川は徐々に埋まっていき、東側に流れの位置を変えていきました。鎌倉時代になると、河川沿いの小高い土地に建物が建ち、周辺は畠としても利用されるようになりました。以降、現代にいたるまで、水田や畠などの耕地として利用され続けました。

河川跡からは、土器の鍋や皿、漆器のお椀、下駄など日常生活で使われた道具のほか、穢れ祓いに使われた木製祭祀具や、雨乞いや農耕の豊穣を祈り、いけにえとされた可能性が考えられる牛や馬などの獣骨がたくさん出土しています。

鎌倉時代の掘立柱建物跡（黄色枠）と河川跡（南西から）

江戸時代以降の調査



鎌倉時代に流れていた河川は、ほとんど埋没してしまっています。もとの河川の北西端部分は水の通り道として残り、杭を打ち込んで護岸され、幅約１～２ｍの水路として使われたようです。耕作の範囲はさらに広がり、調査区の南西側では水田のあぜの跡が見つかりました。

赤外線写真

木簡

耕作の土の中から木簡が２点出土しています。江戸時代の付札木簡（物品の荷札）です。

短いほうには、表裏に「一壱升ゑひ (?)□」と、同じ文面が書かれています。

長いほうには「弁□六升」と書かれています。

当時、「弁□」・「ゑひ (?)□」と呼ばれていた何かの数量を表しているようです。

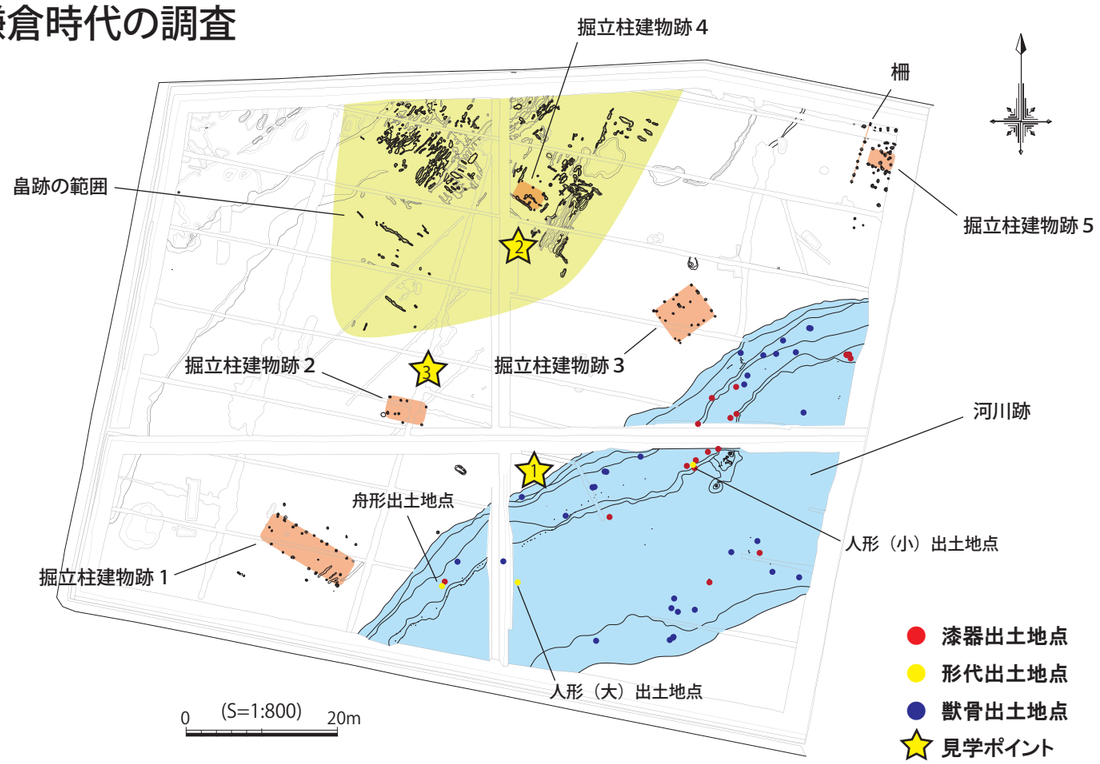
（□は判読できない文字）

文化財保護強調週間
Cultural Properties Protection Week

下坂本清合遺跡発掘調査現地説明会は、第 60 回（平成 25 年度）「文化財保護強調週間」関連行事です。

公益財団法人鳥取県教育文化財団　調査室
〒680－1133　鳥取市源太 12 番地（旧鳥取湖陵高校美和分校内）
TEL：0857-51-7553　FAX：0857-51-7550　e-mail：tottori-kyobun@kyoubun.sakuratan.com
ホームページ：http://kyo-bun.sakura.ne.jp/chosasitsu%20new.htm
Facebook も公開中です。 いいね！

鎌倉時代の調査



調査区の南東側に、幅約 30m、深さ約 1.3mの河川が流れています。この河川の底は、北西側が深い淵となり、南東側は浅瀬になっています。川底には粘土や砂に混じって大量の木の枝や根、木材や木製品などが厚く堆積していたことから、普段は流れがゆるやかな、湿地のような状態だったと考えています。流れの強いときは、おもに川底の深い北西側に沿って流れていたようです。

河川の北西岸寄りの小高い土地を中心に、５棟の掘立柱建物跡が見つかっています。さらに外側の低い土地では、畠（はたけ）の跡が広がっています。土地の特性にあわせて、有効に土地利用が行われていたことがうかがえます。

牛の中手骨・指骨

馬の肩甲骨

動物の骨

河川の中から 35 点の獣骨（じゅうこつ）が出土しました。おもに河川の両岸寄りに分布しています。残り具合が良くないため、種別が分かったものはわずかでしたが、大半は牛もしくは馬の骨と考えられます。

日本では古代から中世にかけて、牛や馬を雨乞（あまご）いの時の「いけにえ」に使用したり、田んぼを作るときに牛の肉を食べたり、虫害を防ぐために肉を供え、豊穣を祈願する儀礼があったことが多くの文献によって伝えられています。

河川から出土した多くの獣骨も、このような農耕儀礼に関わるものであった可能性を考えています。

なお、写真の獣骨の色が青いのは、骨の内部で結晶化した藍鉄鉱（らんてっこう）という鉱物が、空気に触れて酸化し、青く発色したことによるものです。

漆器（椀・皿）

ロクロで加工した木製の器の表面に、漆（うるし）を塗装したものです。古代では官営工房で作られる高級品でしたが、中世になって広く普及するようになります。全面を黒漆で塗られたもの、外面を黒漆、内面を赤漆で塗られたもの、黒漆地に赤漆で文様が描かれたものが出土しています。おもに、河川の北西岸寄りに分布しています。

はきもの

下駄（げた）は、足を乗せる台と歯をひとつの木から作る「連歯（れんし）下駄」と、別に作った歯を台につける「差し歯下駄」の２種類が出土しています。写真下は、板の芯にワラ縄を巻き、はきものの底として使われたとされる、草履（ぞうり）状木製品と考えられます。

形代

左写真右下の人形の頭部を拡大したものです。右を向いた人の横顔が描かれています。

形代（かたしろ）とは、祭祀（さいし）に使われる呪具（じゅぐ）の一種で、人や人と関わりの深い動物、または器具などをかたどったものです。人形（ひとがた）で自（みずか）らの体をなでたり、息を吹きかけることによって、穢（けが）れを人形に移し、水に流して使います。舟形（ふながた）には、航海安全を祈り、天神・水神に供献するという説と、人形とともに用いて、穢れを負った人形を黄泉（よみ）の国に運ぶためという説があるようです。

♨2013♨ 宝喜温泉館さん ♨10.19♨
下坂本清合遺跡現地説明会参加者に限り
入浴料金を 大人100円 子供50円 割引する券
一枚に付き一人まで
当日限り有効